

学生の確保の見通し等を記載した書類 目次
(県立広島大学 生物資源科学部)

1	学生確保の見通し	
(1)	入学定員設定の考え方	1
(2)	定員充足の見込み	
①	広島県の大学進学状況について	1
②	同系統の学部の志願状況について	1
③	既設学部の入学志願状況について	2
④	本学部・学科への受験・入学希望を把握するためのアンケート調査	2
⑤	学生納付金の考え方	3
(3)	学生確保に向けた具体的な取組	4
2	人材需要の動向等社会の要請	
(1)	人材の養成に関する目的その他の研究上の目的(概要)	6
(2)	既設学部の就職状況	7
(3)	人材需要の動向	
①	社会的, 地域的動向	8
②	人材需要の動向調査について	9

1 学生確保の見通し

(1) 入学定員設定の考え方

生物資源科学部では入学定員を、地域資源開発学科 40 人、生命環境学科 100 人の合計 140 人と設定している。

生物資源科学部では、幅広い教養と、「農」や「食」、それらを支える生命科学や環境科学に関する専門性を身に付けるとともに、主体的に考え、生涯学び続ける自律的な学修者として地域創生に貢献できる「課題探究型地域創生人材」の育成を目的としており、教育においては、一方向の講義形式だけでなく、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を積極的に行うこととしている。

人材育成の目的や教育方法、また、以下に述べる定員充足の見込みを考慮した上で、入学定員を設定している。

(2) 定員充足の見込み

①広島県の大学進学状況について

文部科学省「学校基本調査」によると、広島県の 18 歳人口・高校卒業者数とも、平成 26 年から平成 30 年の 5 年間で横ばいである。

大学進学率は、5 年間で 53.8%から 55.2%と増加傾向にある。

また、地元大学進学者数も、5 年間で 7,720 人から 7,790 人の 70 名増と増加傾向にあり、県内高校生の地元大学への進学数は、7,800 人前後と安定的に見込まれる。〔資料 1〕

②同系統の学部の志願状況について

生物資源科学部地域資源開発学科及び生命環境学科と関連のある農・水産学系統の学科の志願状況を見ると、国公立大学では平成 28 年度に比べて約 1 割減少しているが、私立大学では増加しており、全体では志願者数は微増となっている。〔資料 2〕

また、中国四国地方で類似の学部を持つ大学の、一般選抜の志願状況を見ると、各大学とも志願者を安定的に集めているところであるが、志願倍率の面で、県立広島大学はこれらの大学と同等、若しくは高い倍率を保持している。

このことから、両学科とも、受験生の高い需要が見込まれる。〔資料 3〕

なお、類似学部学科の選定に当たっては、教育内容、大学の立地等を比較・検討の上、選定した。

③既設学部の入学生志願状況について

生物資源科学部の基礎となる生命環境学部生命科学科（入学定員 110 人）及び環境科学科（入学定員 55 人）の過去 5 年間の志願状況をみると、志願倍率（5 年平均）は生命科学科で 6.7 倍、環境科学科で 6.5 倍となっており、志願者は安定している。

今回の再編では学科の特色を明確化するため、地域資源開発学科（入学定員 40 人）と生命環境学部（入学定員 100 人）とし、学部全体の入学定員を 25 名減としているが、既設学部・学科の志願状況からみても十分に定員充足が見込まれる。

【生命環境学部生命科学科志願状況（平成 27～31 年度）】

年度	定員 (人) (A)	志願者数 (人) (B)	志願倍率 (B/A)	入学者数 (人) (C)	定員充足率 (C/A)
平成 27 年度	110	779	7.1	115	1.04
平成 28 年度	110	1,043	9.5	114	1.04
平成 29 年度	110	551	5.0	113	1.03
平成 30 年度	110	597	5.4	111	1.01
平成 31 年度	110	736	6.7	117	1.06
平均（平成 27～31 年度）			6.7	—	1.04

【生命環境学部環境科学科志願状況（平成 27～31 年度）】

年度	定員 (人) (A)	志願者数 (人) (B)	志願倍率 (B/A)	入学者数 (人) (C)	定員充足率 (C/A)
平成 27 年度	55	482	8.8	56	1.02
平成 28 年度	55	359	6.5	61	1.11
平成 29 年度	55	239	4.3	55	1.00
平成 30 年度	55	450	8.2	56	1.02
平成 31 年度	55	245	4.6	56	1.02
平均（平成 27～31 年度）			6.5	—	1.03

④本学部・学科への受験・入学希望を把握するためのアンケート調査

本学では、令和 2 年 4 月開設予定の「県立広島大学」再編構想に関して、新学部学科への受験・入学希望を把握するため、高校生へのアンケート調査を実施した。調査に当たり、学科の特色、育成する人材像、想定される進路、類似する学部学科等を掲載したパンフレット〔資料 4〕を配布した上で、県内公立高校 110（18,846 人）を対象とし、12,463 人（回収率 66.1%）の回答を得た。〔資料 5〕

(ア) 高校生アンケートの概要

調査対象	高校2年生
調査エリア	広島県
調査方法	高校留置き調査
依頼数（依頼校）	18,846人（110校）
回収数（回収率）	12,463人（81校）（66.1%）
調査期間	平成31年1月8日～1月25日
調査実施機関	株式会社進研アド

(イ) 調査結果

回答のあった12,463人のうち、国公立大学へ進学を希望する生徒は51.1%、私立大学へ進学を希望する生徒は31.7%であった。（Q1・複数回答）

「どのような学問に興味があるか」の質問において、「農・水産学に興味がある」と回答した生徒は、12,463人中、685人（5.5%）、同様に「理学に興味がある」と回答した生徒は945人（7.6%）、「工学に興味がある」と回答した生徒は2,218人（17.8%）であった。（Q2・複数回答）

生物資源科学部の特色への興味についての質問に対しては、「最新の技術を駆使した研究や実習を通して専門性を身に付けられる教育プログラムを提供」に魅力を感じる生徒の割合が73.5%あり、「農業や食品・環境など地域に根ざした研究活動を支えるための施設（フィールド科学教育研究センター）を設置」に魅力を感じるが66.0%、「「農」「食」の課題解決型、実践重視型のプログラムや「生命」「環境」のアカデミックな高度専門型のプログラムに基づいた幅広い内容を学ぶ」に魅力を感じるが65.6%となった。

さらに、県立広島大学を受験し合格したとき、「どの学科に入学したいか」の質問に対しては、85人が地域資源開発学科への入学を、346人が生命環境学科への入学を希望している。

これは地域資源開発学科の入学定員（40人）、生命環境学科の入学定員（100名）を、それぞれ大きく上回っており、両学科に対するニーズが十分にあると言える。

広島県内の大学進学状況、同系統の全国の志願状況、既存学部への入学志願状況や高校アンケート調査結果を見ても、生物資源科学部地域資源開発学科及び生命環境学科の定員は充足できるものと考えている。

⑤ 学生納付金の考え方

生物資源科学部の学生納付金は以下のとおりである。これは、国立大学及び他の公立大学の学

生納付金を参考に設定している。

【生物資源科学部学生納付金】

	入学料	授業料	施設費
県内生	282,000 円	535,800 円	15,600 円
県外生	394,800 円	535,800 円	15,600 円

(3) 学生確保に向けた具体的な取組

現在は広島県及び中国地方において高い競争力を有し、毎年定員を大きく上回る受験者を確保しているが、18歳人口の減少や、大学間の競争がますます激化することが予想される中で、新学部の学生確保に向けた取組については、教育、研究、地域貢献等の更なる深化と発展による大学の魅力の向上や、本学の教育研究活動を広く発信するための戦略的な広報活動等を行い、高校生・保護者・高校教員に本学の取組や魅力を周知していくことが重要な課題と捉えている。学生確保の取組については、本学教職員や学生が強く連携し、下記の取組により積極的な学生募集活動を展開する。

① 大学の魅力の向上に向けた取組

本学では、平成 26 年度に文部科学省の大学教育再生加速プログラムに全国の公立大学で唯一採択され、県立広島大学独自のアクティブ・ラーニングや、広島県教育委員会や県立高校との連携による教育改革を推進するなど、学生が主体的に学ぶ姿勢を身に付けるためのさまざまな取組を行っている。新設学部においてもこの取組を深化・発展させることで、大学の魅力の向上を図る。

【具体的な取組例】

- ・教員相互の授業レビュー及び高等学校での授業見学による授業方法の改善
- ・地域をフィールドとした行動型学修の推進
- ・高大接続改革の推進
- ・地域課題に関連した5つのプロジェクト研究センターの設置
- ・研究データを活用した、健康増進車による県民の健康づくり支援
- ・企業や地元スポーツ団体とのコラボレーションによる新商品・イベントの企画
- ・海外留学や国際交流活動などの経験を評価対象とする推薦入試「異文化体験枠」の導入

② 学生確保に向けた戦略的広報活動の実施

ア 大学説明会

毎年6月に、本部キャンパスで、高校生、保護者、高校教員を対象に、学長による本学の教育方針の説明や、各学部長による学部の教育内容の説明、入試の概要説明等を行うとともに、施設の見学、教員による個別相談等を行っている。

例年約700人が参加しており、平成30年度は、広島県内だけでなく全国、海外からの参加があった。今年度も6月に実施する予定である。

イ オープンキャンパス

毎年8月に、キャンパス毎に、高校生、保護者を対象に、各学科説明、模擬授業、入試の概要説明、教員による個別相談、学生プレゼンテーション、施設見学、研究室見学、保護者説明会等を行っている。

例年約5,000人が、広く全国から参加しており、今年度も8月に実施する。

ウ 高校訪問

本学への出願が多い県内高校を中心に、教職員がチームを編成し、個別に訪問し、新学部学科をPRする計画を具体化している。

エ 県内高等学校との連絡会等

入試に関する概要説明や意見交換等を県内高校と毎年行っており、今年度も7月に開催予定の会議において新学部学科の入試概要等を周知することとしている。

オ ホームページでの紹介

本学の公式ホームページに、新学部学科の概要を掲載し、広く周知を図るとともに、最新の情報やイベント等についても、適宜掲載し、情報発信をきめ細やかに行う。

カ 大学案内等パンフレットの作成

再編後の新学部学科を周知するツールとして、再編後の教育課程の特色や、育成する人材像、入試情報等を掲載した大学案内やパンフレットを作成し、高校訪問やオープンキャンパス等でも活用し、新学部学科を広く周知する。

上記の取組のほか、民間企業が制作する進学情報誌や進学情報サイトを通じての情報発信、本学が高大連携で実施している模擬授業等、様々な機会を通じて広報活動を展開する。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の研究上の目的（概要）

生物資源科学部では、私たちの生存基盤である「環境」において、生活に必須である「農」や「食」を支える生命科学や環境科学に関する専門性を活かし、人類や地域に貢献する人材を育成することを目的としている。

(地域資源開発学科)

農業の現場の高齢化や労働力不足、栽培技術の継承、農業の付加価値向上等の、効率的かつ安定的な農業経営の実現、農作業の省力化やロボット技術、I o T技術等の科学技術を活用した農業への期待等の社会的課題を背景に、「農」や「食」の実践的な技術や知識、経営の専門知識を用いて未来の農業（スマート農業）や持続可能な「農」と「食」の実践とマネジメントを探究するとともに、地域産業の再生と新規産業の創出に貢献できる人材を育成し、地域に貢献することを教育研究上の目的とする。

また、それらの人材は、地域の文化的背景や伝統知を考慮しながら科学的根拠に基づき思考・探究・判断する力、地域創生のための情報発信力・実践力・マネジメント力、関係する人材・事象と協働しながら解決する力により地域を活性化し地域社会を牽引する「課題探究型地域創生人材」としての能力も身に付けており、卒業後は、大学院進学のほか、ICTやAI、ロボット技術やI o Tを活用した農業法人、農機具メーカー、学校、地方自治体（県、市町）等において活躍することが期待される。

(生命環境学科)

生命機能の解明、生物資源の開発によるクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）の向上、持続可能な社会の構築、良好な生存環境の創出など医療・環境・食料等の「人々の生存」にかかわる分野における多様な現代的問題に対処するため、生命科学と環境科学を密接に関連付け、専門知識や最先端の研究技術を用いて、多様な社会の課題を解決できる能力を修得し、地域の活性化や良好な生存環境の保全、持続可能な社会の構築に役立つ科学を探究できる人材を育成し、地域に貢献することを教育研究上の目的とする。

また、それらの人材は、自律的に新たな概念や技能を活用・探究するとともに、他者と協働しながら生命の営みを支え、健全な環境を守り・創出する「課題探究型地域創生人材」としての能力も身に付けており、卒業後は、大学院進学のほか、医薬品、食品、アグリバイオ、生殖科学等の企業・団体、循環調和型技術・材料の開発や環境修復・評価等の企業・団体、学校、地方自治体（県、市町）等において活躍することが期待される。

(2) 既設学部の就職状況

生物資源科学部の基礎となる生命環境学部生命科学科及び環境科学科の、過去5年間の就職希望者に対する就職率は、97%から100%で推移しており、安定して高率を維持している。

生命科学科の就職先については「卸売・小売業」、「サービス業」、「製造業（食品）」、「製造業（化学）」、「医療・福祉」、「金融・保険業」、「情報通信業」、「地方公務員」、「農業・林業」、「建設業」、「運輸・郵便業」、「教育・学習支援」等へ、環境科学科では「卸売・小売業」、「サービス業」、「製造業（化学）」、「地方公務員」、「建設業」、「製造業（食品）」、「金融・保険業」、「情報通信業」等となっており、卒業生は幅広い分野へ就職し、社会の各層で活躍している。

就職をしない者についても、主に全国の理系の国公立大学大学院へ進学しており、更に高い能力を身に付け、高度専門職業人として活躍している。

再編後、類似する教育内容を含む地域資源開発学科及び生命環境学科の卒業生においても、良好な就職状況が期待できる。

【生命環境学部生命科学科就職率（平成26～30年度）】

年度	卒業者数（人）	就職希望者数（人） （A）	就職者数（人） （B）	就職率（%） （B/A）
平成26年度	90	73	72	98.6
平成27年度	109	84	84	100.0
平成28年度	116	99	99	100.0
平成29年度	103	81	81	100.0
平成30年度	106	94	94	100.0

（就職先：平成31年3月卒業生）

（株）ブルボン、（株）ヤクルト本社、丸善食品工業（株）、オタフクソース（株）、（株）ファーマフーズ、（株）サングレカ、（株）あじかん、（株）アンデルセン、カゴメ（株）、UCC上島珈琲（株）、第一三共（株）、（株）サタケ、テンパール工業（株）、大倉工業（株）、愛知電機（株）、（株）NTTファシリティーズ中国、（株）新来島どつく、ティーエスアルフレッサ（株）、（株）しまむら、（株）ツルハグループドラッグ&ファーマシー西日本、（株）愛媛銀行、シオノギテクノアドバンスリサーチ（株）、（株）叙々苑、瀬戸内学園 広島県瀬戸内高等学校、静岡県、岡山県、広島県、長崎県 など

（進学先：平成31年3月卒業生）

神戸大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、県立広島大学大学院、明治大学大学院

【生命環境学部環境科学科就職率（平成26～30年度）】

年度	卒業者数 (人)	就職希望者数 (人) (A)	就職者数 (人) (B)	就職率 (%) (B/A)
平成 26 年度	51	37	36	97.3
平成 27 年度	49	39	38	97.4
平成 28 年度	50	39	38	97.4
平成 29 年度	59	44	44	100.0
平成 30 年度	54	48	48	100.0

(就職先：平成 31 年 3 月卒業生)

中電プラント(株)，ダン環境設備(株)，宮島醤油(株)，福留ハム(株)，勇心酒造(株)，凸版印刷(株)，旭化成(株)，マツダ(株)，日本アイ・ビー・エム共同ソリューション・サービス(株)，山九(株)，(株)ネクステージ，広島トヨタ自動車(株)，(株)ウエスコ，日鉄住金テクノロジー(株)，エフコープ生活協同組合，(株)三井開発，日本データリンク(株)，兵庫県，広島県，廿日市市，下関市

(進学先：平成 31 年 3 月卒業生)

北海道大学大学院，大阪教育大学大学院，奈良先端科学技術大学院大学

(3) 人材需要の動向

①社会的，地域的動向

中央教育審議会の「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン (答申)」(平成 30 年 11 月)では，2040 年に必要とされる人材として，予測不可能な時代を生きるに当たり，文理横断的な普遍的な知識・理解と汎用的技能，及び，積極的に社会を支え，論理的思考力を持って社会を改善していく資質が求められるとともに，AI 等の新しい技術を使っていく側として，知識や技能を活用し，技術開発と価値創造の源となる飛躍知の発見・創造など新たな社会を牽引する能力が求められている。〔資料 6〕

また，(一社)日本経済団体連合会の「採用と大学教育の未来に関する産学協議会中間とりまとめ」(平成 31 年 4 月)では，Society5.0 時代に求められる人材として，論理的思考力と規範的判断力をベースに社会システムを構想する力を備えた人材としており，課題発見・解決力，未来社会の構想・設計力等が必要とされている。〔資料 7〕

さらに，広島県の「広島県まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成 31 年 3 月)においては，人口減少を克服し，地方創生を成し遂げるために，イノベーションによる新たな価値の創造や地域を牽引する経営力の高い担い手による「しごとの創造」，県内大学等におけるグローバル人材の育成による「ひとの創生」等を，人口減少と地域経済縮小という課題に対応するための基本的な

視点として掲げている。〔資料8〕

本学が目指す「課題探究型地域創生人材」の育成は、学生が自律的に新たな概念や技能を活用・探究するとともに他者と協働して新たな価値を創出し、地域を活性化して地域社会を牽引する人材の育成を目的としている。上記のとおり「課題探究型地域創生人材」への重要性は増しており、生物資源科学部の設置は、社会の要請に答えるものである。

②人材需要の動向等調査について

令和2年4月開設予定の「県立広島大学」再編構想に関して、企業の人材ニーズを把握するため、企業へのアンケート調査を実施した。調査に当たり、学科の特色、育成する人材像、想定される進路、類似する学部学科等を掲載したパンフレットを配布した上で、企業2,306社を対象とし、702社（回収率30.4%）の回答を得た。〔資料9〕

（ア）アンケート調査の概要

調査対象	企業の採用担当者
調査エリア	北海道、岩手県、宮城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
調査方法	郵送調査
依頼数（依頼校）	2,306社
回収数（回収率）	702社（30.4%）
調査期間	平成31年1月8日～1月25日
調査実施機関	株式会社進研アド

（イ）調査結果

（地域資源開発学科）

生物資源科学部地域資源開発学科の社会的必要性については、88.5%（621企業）が「必要だと思う」と回答し、回答企業の大部分が、本学科の社会的必要性を感じている。

また、学部の特徴への興味についての質問に対しては、「「農」「食」の課題解決型、実践重視型のプログラムや「生命」「環境」のアカデミックな高度専門型のプログラムに基づいた幅広い内容を学ぶ」に魅力を感じる企業の割合が56.7%あり、「農業や食品・環境など地域に根ざした研究活動を支えるための施設（フィールド科学教育研究センター）を設置」に魅力を感じるが55.7%、「最

新の技術を駆使した研究や実習を通して専門性を身に付けられる教育プログラムを提供」に魅力を感じるが 53.5%と、本学科の特色についての魅力度は高い。

さらに、本学科卒業生の採用意向については、「採用したいと思う」と回答した企業が 322 企業あり、毎年の採用想定人数が確定している企業 (130 企業) の採用想定人数の合計は 210 名であり、入学定員 40 人を大きく上回る採用意向が見られた。

(生命環境学科)

生物資源科学部生命環境学科の社会的必要性については、89.9% (631 企業) が「必要だと思う」と回答し、回答企業の大部分が、本学科の社会的必要性を感じている。

また、学部の特徴への興味についての質問に対しては、「「農」「食」の課題解決型、実践重視型のプログラムや「生命」「環境」のアカデミックな高度専門型のプログラムに基づいた幅広い内容を学ぶ」に魅力を感じる企業の割合が 59.9%あり、「農業や食品・環境など地域に根ざした研究活動を支えるための施設 (フィールド科学教育研究センター) を設置」に魅力を感じるが 59.5%、「最新の技術を駆使した研究や実習を通して専門性を身に付けられる教育プログラムを提供」に魅力を感じるが 58.9%と、本学科の特色についての魅力度は高い。

さらに、本学科卒業生の採用意向については、「採用したいと思う」と回答した企業が 345 社あり、毎年の採用想定人数が確定している企業 (142 企業) の採用想定人数の合計は 373 名であり、入学定員 100 人を大きく上回る採用意向が見られた。

以上のように、生物資源科学部地域資源開発学科及び生命環境学科で育成する人材を求める企業等は多く、また、生物資源科学部の母体である生命環境学部の卒業生の多くが、幅広い分野へ就職し、社会の各層で活躍していることを踏まえ、本学部卒業生の卒業後の進路は十分に見込まれるものとする。

参 考 資 料

資料1	広島県の大学進学状況の推移（平成26年～30年）	1
資料2	農・水産学系統志願者等推移（平成28年～30年）	2
資料3	類似学部を持つ大学の志願動向等（平成29年度～31年度）	3
資料4	県立広島大学 学部・学科再編の概要（パンフレット）	4
資料5	県立広島大学「生物資源科学部（仮称）設置に関するニーズ調査結果 報告書〔高校生対象〕	10
資料6	中央教育審議会 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」 〔一部抜粋〕	50
資料7	日本経済団体連合会 「採用と大学教育の未来に関する産学協議会中間とりまとめ」 〔一部抜粋〕	54
資料8	広島県 「広島県まち・ひと・しごと創生総合戦略」〔一部抜粋〕	59
資料9	県立広島大学「生物資源科学部（仮称）設置に関するニーズ調査結果 報告書〔企業対象〕	67

広島県の大学進学状況の推移

■大学・短大進学状況の推移

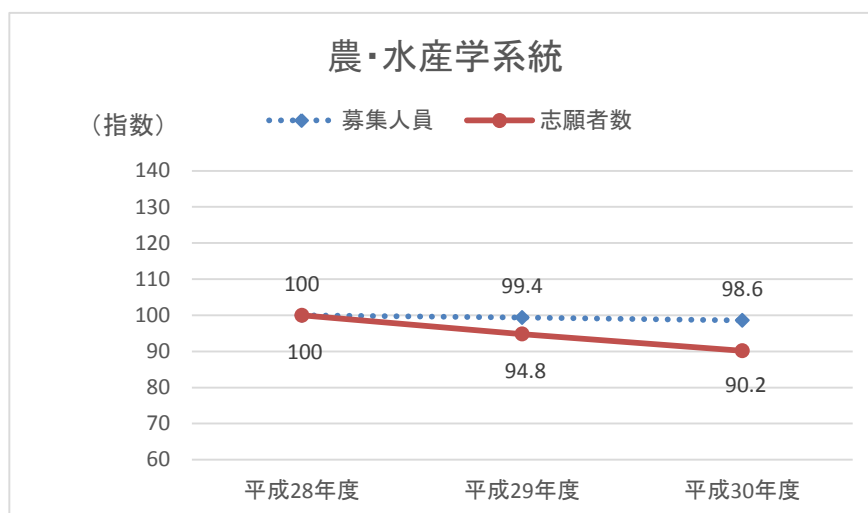
(単位:人)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成30 -26	平成30 /平成26 (%)
18歳人口	27,016	27,531	27,204	27,297	26,710	▲ 306	99
高校卒業者数	23,401	23,758	23,468	23,780	23,225	▲ 176	99
大学進学率(%)	53.8	53.4	53.9	54.9	55.2	1	-
短期大学進学率(%)	4.8	4.5	3.9	3.8	3.4	▲ 1	-
大学進学者数	14,533	14,701	14,672	14,995	14,739	206	101
地元大学進学者数	7,720	7,748	7,698	7,821	7,790	70	101
地元大学進学率(%)	53.1	52.7	52.5	52.2	52.9	▲ 0	-
他県大学進学者数	13,107	13,241	13,189	13,547	13,547	440	103
短大進学者数	1,299	1,234	1,060	1,040	903	▲ 396	70
地元短大進学者数	923	867	687	681	567	▲ 356	61
地元短大進学率(%)	71.1	70.3	64.8	65.5	62.8	▲ 8	-
他県短大進学者数	1,175	1,089	871	858	766	▲ 409	65

文科省「学校基本調査」

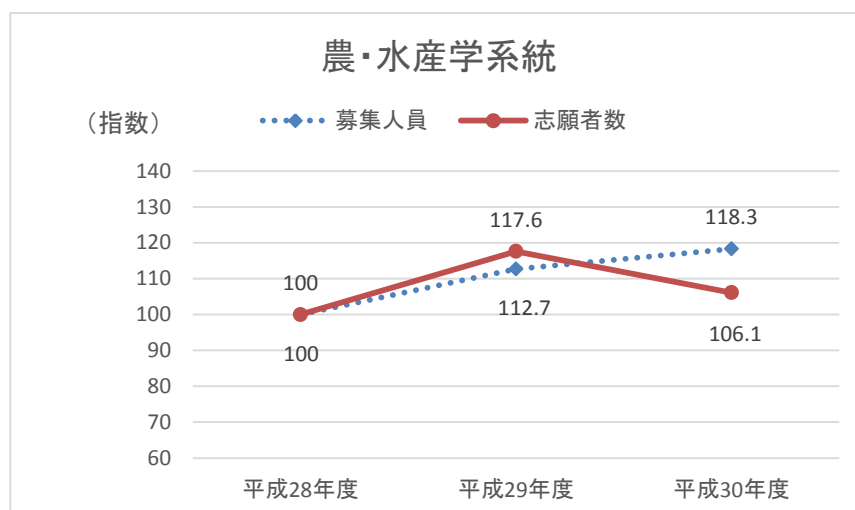
農・水産学系統志願者等推移(平成28～30年度)

国公立大学



	平成28年度	平成29年度	平成30年度	差(平成30年度-平成28年度)
募集人員	6,617	6,576	6,524	-93
志願者数	28,825	27,336	25,988	-2837
志願倍率	4.4	4.2	4.0	-
受験者数	20,826	19,644	18,533	-2,293
合格者数	7,433	7,406	7,376	-57

私立大学



	平成28年度	平成29年度	平成30年度	差(平成30年度-平成28年度)
募集人員	3,635	4,097	4,299	664
志願者数	47,178	55,503	50,057	2,879
志願倍率	13.0	13.5	11.6	-
受験者数	44,181	52,035	46,730	2,549
合格者数	11,236	12,750	12,722	1,486

類似学部を持つ大学の志願動向等

大学名 学部学科名	日程	平成29年			平成30年			平成31年		
		定員	志願者数	志願倍率	定員	志願者数	志願倍率	定員	志願者数	志願倍率
島根大学 生物資源科学部	前期	127	342	2.7	127	297	2.3	127	309	2.4
	後期	28	171	6.1	30	455	15.2	30	391	13.0
岡山大学 農学部	前期	80	144	1.8	80	145	1.8	78	183	2.3
	後期	19	124	6.5	18	102	5.7	18	98	5.4
広島大学 生物生産学部	前期	65	166	2.6	65	163	2.5	65	144	2.2
	後期	10	75	7.5	10	47	4.7	10	137	13.7
愛媛大学 農学部	前期	91	212	2.3	91	162	1.8	93	172	1.8
	後期	18	175	9.7	18	136	7.6	18	140	7.8

地域から 未来を開こう

生物資源科学部

地域資源開発学科
生命環境学科



地域創生学部

地域創生学科



保健福祉学部

保健福祉学科



新しい学びが始まる

2020年4月開設(仮称・設置構想中)

※記載の内容は現在計画中の予定であり、変更される可能性があります。

キャンパスは「地域・ひろしま」。 よりアクティブに学び、 これからの時代を生き抜く。

私たちを取り巻く環境は、グローバル化や情報化の進展などにより刻々と変化し、将来の予測がますます困難な時代に突入しています。このような時代を生き抜く力を育む「アクティブな学び」を提供するため、**県立広島大学**は生まれ変わります。現在の4学部11学科から、3学部4学科へと再編し、3つのキャンパスを拠点に「**地域・ひろしま**」を学びのフィールドとして最大限に活用した教育を展開。主体的に考え、課題解決に向け行動できる実践力、多様性を尊重する国際感覚や豊かなコミュニケーション能力を身に付け、生涯学び続ける自律的な学修者として地域創生に貢献できる「**課題探究型地域創生人材**」を育成します。

県立広島大学は、3学部4学科体制に生まれ変わります。



経過選択制の導入

本学の新しい3学部では、全学部の一部に「経過選択制」を導入します。この制度は、入学前にコース(専門)を決め切ってしまうのではなく、大学入学後に幅広い専門分野の大学教育に触れながら、学生一人ひとりが抱いた興味や関心などに基づいて、学びたいコースを主体的に選択するための制度です。

地域の課題を解決するために自ら考え、行動できる人になる。

地域創生学部

地域創生学科 (仮称)



広島キャンパス

教育の目標

自分が暮らす身近な地域の問題や世界の各地で起こっている出来事を、私たちはどのように理解し、考えていくべきなのでしょう。地域創生学部では地域社会の実態や課題を浮き彫りにするとともに、課題の解決に向けて地域文化・地域産業・健康科学についての専門知識・技能を活用し、さまざまな個人や組織と力を合わせて、地域社会の持続的な発展に貢献できる人材を育成します。

学部・学科の特徴

- 地域創生・地域イノベーションの視点から学ぶ
- 社会・人文科学、経営学、情報学、健康科学など幅広い分野を融合した教育プログラムを設置
- 学修の幅をさらに広げられる副専攻教育プログラムも設置

地域文化 コース

育成する人材像

地域はつねにグローバルな世界とつながっています。地域文化コースでは「多文化共生」と「文化継承」をテーマに、継承すべき地域の文化を世界的な視野で探究し、他国の文化の理解や外国語コミュニケーション能力を活用して、地域と世界のために行動する人材を育成します。

想定される進路

- 企業・行政・NPOなどさまざまな場面で、多文化共生の試みや地域の歴史・文化コンテンツの活用に携わる人材
- 学校の国語・英語教員
- 博物館などの文化施設の専門職員

地域産業 コース

育成する人材像

地域産業・地域社会を持続的に発展させるためには、最新の経営手法とIoT・AIを含む情報技術が不可欠です。地域産業コースでは、企業・行政・NPOなど多様な組織活動を担う人材、情報システムの企画・設計開発・運用管理を通して企業や社会の情報化に寄与できる情報化推進者や情報処理技術者を育成します。

想定される進路

- 経営戦略・マーケティングと会計ファイナンスの専門知識を用いて企画・提案・マネジメントを行う人材として勤務(金融・保険・卸・小売業、製造業、サービス業、公務員 ほか)
- 応用情報学の専門知識を活用して情報化の企画・提案、IoT・AIやデータ解析などの技術開発を担うIT技術者として勤務(情報通信業、サービス業、金融機関、製造業、公務員 ほか)

健康科学 コース

育成する人材像

真に豊かで健康な人間生活の実現をめざし、生涯にわたる健康の維持・増進と心身の調和的発達や、長寿社会における生活の質の向上に関して、「食・運動・生体」をテーマに、他者と協働して主体的かつ積極的に取り組む人材を育成します。

想定される進路

- 公的機関(保健所・保健センター)、病院、福祉施設などの管理栄養士、食品衛生監視員など
- 食品・給食関連企業の管理栄養士、研究員
- 学校の栄養教諭・学校栄養職員
- 関連分野の大学院

類似大学・学部 ● 兵庫県立大学 環境人間学部 ● 鳥取大学 地域学部 ● 高知大学 地域協働学部 ● 島根県立大学 人間文化学部 ● 福山市立大学 都市経営学部

※学問的な関連性・共通性を一部有する学部など

私たちの生存基盤である「農」や「食」、それらを支える
生命科学や環境科学に関する専門性を活かし、人類や地域に貢献する。

生物資源科学部

地域資源開発学科(仮称) 生命環境学科(仮称)



庄原キャンパス

教育の目標

豊かな自然に囲まれた環境の中で、地域を学びのフィールドとして、「農」「食」にかかわる地域課題や「生命」「環境」にかかわる諸問題の解決に取り組むことで、人々の生存にかかわる分野の専門知識・技術を学び、豊かで持続可能な社会の創出に貢献できる人材を育成します。

学部・学科の特徴

- 「農」「食」の課題解決型、実践重視型のプログラムや「生命」「環境」のアカデミックな高度専門型のプログラムに基づいた幅広い内容を学ぶ
- 最新の技術を駆使した研究や実習を通して、専門性を身に付けられる教育プログラムを提供
- 農業や食品、環境など地域に根ざした高度な研究活動を支えるための施設(フィールド科学教育研究センター)を設置

地域資源開発学科

「農」や「食」の実践的な技術や知識、経営の専門知識を用いて未来の農業(スマート農業)や持続可能な「農」と「食」のマネジメントを探究するとともに、地域産業の再生と新規産業の創出に貢献できる人材を育成します。

3つの専門科目群

- 農業生産開発系
- 食品分析開発系
- 農食マネジメント系

育成する人材像

現場で活かせる技術・知識と経営の専門知識を身に付け、科学的根拠に基づく実践力とマネジメント力を駆使して地域社会を活性化、牽引できる人材を育成します。

想定される進路

- ICTやAI、ロボット技術を活用した農業法人
- IT企業や農機メーカー
- 学校の教員(農業)
- 公務員
- 普及指導員
- グローバル人材や専門家をめざすための大学院

生命環境学科

「人々の生存」にかかわる分野の専門知識・技術を用いて社会の課題を解決できる能力を修得し、地域の活性化や良好な生存環境の保全、持続可能な社会の発展などに役立つ科学を探究できる人材を育成します。

生命科学 コース

育成する人材像

ライフサイエンスやバイオテクノロジーに関する専門知識・技術を修得し、医薬品、食品、アグリバイオ、生殖科学などの分野で活躍できる人材を育成します。

想定される進路

- 医薬品、食品、アグリバイオ、生殖科学などに取り組む企業・団体
- 循環調和型技術・材料の開発や環境修復・評価など環境課題に取り組む企業・団体
- 学校の教員(理科)
- 公務員
- グローバル人材や専門家をめざすための大学院

環境科学 コース

育成する人材像

持続可能な社会の発展と良好な生存環境の保全に関する専門知識・技術を修得し、環境の保全や評価、資源の循環利用などに関する分野で活躍できる人材を育成します。

保健福祉学部

保健福祉学科 (仮称)



三原キャンパス

教育の目標

保健・医療・福祉分野で活躍するためには、専門的な知識・技術のみならず高い倫理観や豊かな人間性を併せ持つことが必要です。新たな保健福祉学部では、1学科制を強みとしたコース横断型演習プログラムにより、職種を超えたコミュニケーション能力を育むとともに、地域包括ケアに貢献できる技能をもった、現場のリーダーとなる人材を育成します。

学部・学科の特徴

- 1学科5コースとして職種の枠を超えてチーム医療を学べるプログラムを提供
- 地域包括ケアを担うための専門知識・技能を学ぶ
- 保健・医療・福祉現場のリーダーとして活躍するための多角的な視点を学ぶ

看護学 コース

育成する人材像

- ①生命への尊厳をもって全人的に援助できる
- ②あらゆる健康状態にある人々のニーズに対応できる
- ③高い倫理観や高度な専門的知識を有している
- ④主体的な態度により多様な人々と協働できる

取得可能な資格・免許

- 看護師国家試験受験資格
- 保健師国家試験受験資格
- 養護教諭一種免許状

理学療法学 コース

育成する人材像

- ①身体の活動を科学的に捉えることができる
- ②理学療法の分野での確かなケアシステムを提供できる
- ③高い倫理観や高度な専門的知識を有している
- ④主体的な態度により多様な人々と協働できる

取得可能な資格

- 理学療法士国家試験受験資格

作業療法学 コース

育成する人材像

- ①人の作業を科学的に捉えることができる
- ②作業療法の分野での確かなケアシステムが提供できる
- ③高い倫理観や高度な専門的知識を有している
- ④主体的な態度により多様な人々と協働できる

取得可能な資格

- 作業療法士国家試験受験資格

コミュニケーション 障害学コース

育成する人材像

- ①コミュニケーション能力を有し、多様な関係者と良好な関係を築ける
- ②リーダーシップ、フォロワーシップ、自己マネジメント能力を有し、課題に的確に対応できる
- ③コミュニケーション障害学の分野での確かなケアを提供できる
- ④高い倫理観や高度な専門的知識を有している

取得可能な資格

- 言語聴覚士国家試験受験資格

人間福祉学 コース

育成する人材像

- ①地域共生社会の実現に貢献できる
- ②人々が抱えるさまざまな生活課題を発見し、解決に向けて支援できる
- ③高い倫理観や高度な専門的知識を有している
- ④地域づくりと人々の生活を支える仕組みづくりに取り組める
- ⑤多様な関係者と良好な関係を築き、協働できる

取得可能な資格

- 社会福祉士国家試験受験資格
- 精神保健福祉士国家試験受験資格 (ほか)

想定される進路

- 医療機関、福祉施設、地方公共団体などで医療・保健・福祉専門職として勤務

進化を続ける 県立広島大学

本学では、平成26年度に文部科学省の大学教育再生加速プログラムに全国の公立大学で唯一採択された県大型アクティブ・ラーニングや、広島県との連携による教育改革を推進するなど、学生が主体的に学ぶ姿勢を身に付けるためのさまざまな取り組みを行っています。学部・学科の再編は、このような取り組みをさらに進化・発展させるものです。

県大では教育改革を進めるために、 このようなことに取り組んでいます！

- 教員相互の授業レビューおよび高等学校への授業見学による授業方法の改善
- 地域をフィールドとした行動型学修の推進
- 高大接続改革の推進
- 地域課題と関連した5つのプロジェクト研究センターの立ち上げ
- 研究データを活用した、健康増進車(コソコソ健康増進号)による県民の健康づくり支援
- 企業や地元スポーツ団体とコラボレーションした新商品・イベントの企画
- 海外留学や国際交流活動などの経験を評価する推薦入試「異文化体験枠」の導入 など

入学料・授業料(2020年度予定)

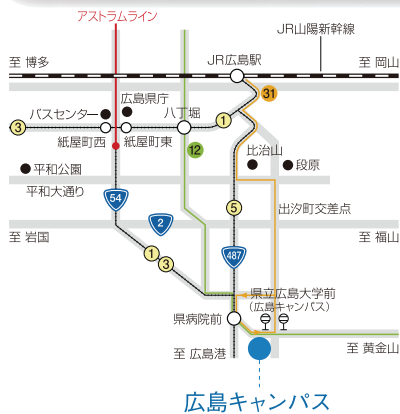
地域創生学部
生物資源科学部
保健福祉学部

全学部共通

	県内	県外
入学料	282,000円	394,800円
授業料	通年535,800円 (半期267,900円)	

※生物資源科学部(庄原キャンパス)については、施設費(年額:15,600円)が別途必要です。

アクセス



広島キャンパス[大学本部]

広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

●JR広島駅から

【バス】広島バス「31号線(翠町線)」にて
「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車(約20分)…徒歩3分
【市内電車】「広島線」行き(⑤号線)にて「県病院前」下車(約20分)…徒歩7分

●バスセンター(紙屋町)から

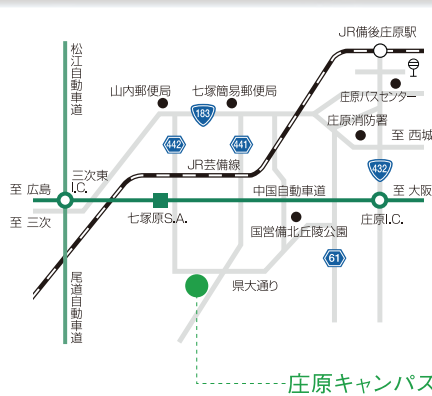
【市内電車】「広島線」行きまたは「宇品二丁目」行き(①号線または③号線)にて
「県病院前」下車(約20分)…徒歩7分

●広島港(宇品)から

【市内電車】「広島線」行き(①号線または⑤号線)または
「広島西広島(己斐)」行き(③号線)にて「県病院前」下車(約10分)…徒歩7分

●八丁堀(ヤマダ電機前)から

【バス】広島バス「12号線(仁保沖町)」にて
「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車(約20分)…徒歩1分



庄原キャンパス

広島県庄原市七塚町5562番地

■高速道路

広島IC~三次東IC…81.5km(約1時間)
尾道IC~三次東IC…70.6km(約1時間20分)
※三次東ICから約15分

■バス

広島バスセンター~庄原バスセンター…高速バスで約1時間50分
(直通:県立広島大学前行き 約2時間)

■JR

JR広島駅~JR備後庄原駅…JR芸備線で約2時間

●JR備後庄原駅~庄原バスセンター~庄原キャンパス…スクールバス(21分)
「県立広島大学前」下車



三原キャンパス

広島県三原市学園町1番1号

■JR

JR広島駅~JR三原駅…JR山陽新幹線「こだま号」で約30分
JR岡山駅~JR三原駅…JR山陽新幹線「こだま号」で約45分

■リムジンバス

広島空港~JR三原駅…約40分

●JR三原駅~三原キャンパス
JR三原駅南口バス5番乗り場から芸備バス「籍兼線」に
乗車(約15分)、「県立広島大学」(終点)下車

